



CONTENTS

- 第47回日本看護学会
—看護管理—学術集会 2~6
- 石川県知事に要望書提出 7
理事会報告
アドバンス助産師のWa
- シリーズ：施設紹介 8
- トピックス：白衣の歴史をたどる 9
- お知らせ 10



公益社団法人 石川県看護協会

〒920-0931 金沢市兼六元町3-69
TEL 076-232-3573 FAX 076-232-3973
URL <http://www.nr-kr.or.jp/>
mail info@nr-kr.or.jp

会員数：9,757人

保健師：278人 助産師：285人 看護師：8,797人 准看護師：397人 H29.01現在



成功の喜びを伝えます

撮影

川端 香子 (桜ヶ丘病院)

私は今回、看護管理学会に広報担当(写真係)として2日半参加させていただきました。前日準備から閉会まで、また学会会場全てで行われている内容を収めるべく、各所いろんな会場を回り、カメラ1台あたり約800枚の写真を撮りました。初めは学会のこういった風景を撮るのか漠然としていたのですが、各会場を回るうちに、来場した人とスタッフの関りを中心に臨場感が伝えられたらと思いシャッターを切っていました。

また、撮影スタッフとして参加することで、学会が当日どのように運営されているのかを垣間見る事が出来たこと、その時のスタッフが役割をこなす姿はとても勉強になりました。

今回の学会の写真から、そういった学会での臨場感が皆さんにも伝われば良いと思っています。

平成29年度改選役員および推薦委員の立候補ならびに推薦について

平成29年5月20日(土)に開催される平成29年度通常総会において、改選役員および推薦委員の選挙を実施いたしますので、立候補ならびに受付期間などについてお知らせいたします。

■ 改選人数と役職名

1. 役員 6人
 - (1) 会長 1人
 - (2) 専務理事 1人
 - (3) 常任理事 1人
 - (4) 金沢第二地区理事 1人
 - (5) 能登中部地区理事 1人
 - (6) 能登北部地区理事 1人
2. 推薦委員 6人

■ 立候補の場合

正会員6人以上の推薦を受けて、届出用紙を選挙管理委員会あてに郵送下さい。

【届出用紙】石川県看護協会ホームページからダウンロードしてご使用下さい

【送付先】〒920-0931 金沢市兼六元町3番69号
公益社団法人石川県看護協会
選挙管理委員長 小堀 三栄子 あて(親展)

【提出締切日】平成29年1月27日(金)
※当日消印有効(要郵送)

■ 推薦する場合

平成29年度改選役員および推薦委員を推薦する場合は以下についてご確認下さい。

1. 改選人数と役職名 左記 **改選人数と役職名** と同じ
2. 推薦基準
 - (1) 本会の目的達成のための活動に積極的に取り組み、任務を遂行できる人
 - (2) 本会が定めた会議に出席できる人
3. 受付期間など
推薦書に正会員6人以上の推薦を受けて、届出用紙を推薦委員会あてに郵送下さい。
【届出用紙】石川県看護協会ホームページからダウンロードしてご使用下さい
【送付先】〒920-0931 金沢市兼六元町3番69号
公益社団法人石川県看護協会
推薦委員長 野村 鈴恵 あて(親展)
【提出締切日】平成29年1月27日(金)
※当日消印有効(要郵送)
4. 推薦された方々につきましては、推薦委員会で協議の上、候補者として推薦を確定させていただきます。

平成30年度公益社団法人日本看護協会代議員及び予備代議員選出について

平成29年1月に日本看護協会より選出すべき代議員数の通知後、ホームページに掲載しますのでご確認下さい。



施設紹介



精神障がいのある方の日常生活と社会復帰をサポートします！

桜ヶ丘病院 看護部長 三中 陽子



医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院は許可病床数 496 病床の精神科専門病院です。「精神科専門病院として、心のケアから高齢者医療にいたるまで心のこもった医療を行います。」を基本理念とし、患者さんが安心して安全に医療を受けられるよう看護・介護の質向上に努めています。

病棟編成は精神一般病棟 4 病棟、精神療養病棟 2 病棟、認知症病棟 2 病棟であり、認知症病棟では、看護職員や作業療法士が患者さんに合わせたプログラムを実施しています。また精神一般病棟の中の身体合併症治療病棟は、肺炎や糖尿病等合併症の治療を要する方、輸血を要する方や胃瘻・中心静脈栄養の方から終末期にある方まで、幅広くケアしています。

病状が安定しても家庭復帰が困難なことがあり、精神障がい者を取りまく現状は極めて厳しいものです。一方精神科病院の病床削減と退院支援が強く言われており、当院としても社会復帰促進には力を入れています。院外の作業所等の見学を行い、院内においても様々な取り組みを試みています。その一つとして「喫茶の充実」です。通称「さくら喫茶」は、デイケアのメンバーさんを中心に経営しています。外来患者さんや職員だけでなく地域の方々にもお越し頂けるようなオープンスペースとなっています。また就労として「白い小箱」の梱包をしています。「白い小箱」とは、災害時の非常用備蓄食品のセットで、近畿地区では既に学校や施設、また一般家庭にも普及しているそうです。地震等の災害がいつどこで起きてもおかしくないこの時代、非常用備蓄は必須であり、その準備を就労として行う事は、意義も大きいものと確信しています。私も家庭用として大、小 1 セットずつ購入しました。

またお近くにお越しの際は、「さくら喫茶」へもお気軽にお立ち寄りください。「白い小箱」も展示してあります。皆様のお越しをお待ちしています。



当たり前が貴重な体験

金沢こども医療福祉センター 看護部長 邑井 雅和

当施設では 10 年前に肢体不自由児の入院期間が 3 年間延長され、高校卒業までとなりました。それ以前は中学卒業と同時に退院し、ほとんどの子ども達が高校に進学したので、進路について悩むことはありませんでした。しかし、入院期間が延長された現在は、子ども達全員の高校卒業後の生活について、児や家族と共に考え支援することが看護の一環になっています。

子ども達の中には幼児期に入院し、施設で 10 数年過ごす例もあります。入院期間が長期化すれば、社会性を養う機会が激減します。そうした機会をおぎないつつ、子ども達を自立へと導くことが当施設の課題です。その対策の一つに外出訓練があります。適切な時期が来ると、多職種が協働し担当の児に公共交通機関の利用方法を実地指導します。その過程における体験の積み重ねにより、最終的に単独外出をめざすのです。



この訓練中に子ども達は、それぞれが実社会のバリアに遭遇します。たとえば、車椅子の児が、横断歩道中央のわずかな傾斜を乗り越えられなかったり、杖歩行の児が、JR の車両ステップに足を上げられず乗車を見送るといったケースです。しかし、そんな体験を通して自分の課題に気づいた彼らは、それ以降、積極的に車椅子でスロープを登る練習をしたり、階段昇降に取り組むようになります。

単独で外出が出来るようになって、アクシデントはつきものです。以前、外出先で初めてタクシーを利用した児がいました。彼は、インターネットで初乗り運賃の安いタクシー会社を検索し電話したのですが、いつまで待ってもタクシーは来ませんでした。運転手に「住所はどちらですか？」と聞かれた時に、施設の住所を答えてしまったからです。タクシーを依頼する時は、来て欲しい場所を指定しなければならないことが学習されていなかったのです。今となっては笑い話ですが、そんな失敗を糧に施設の子ども達は社会性を身につけ、自立に向かって行くのです。

写真は雪道の登校風景です。健常者には当り前のこんなことが、彼らには貴重な体験になるのです。